



鶴雅グループ70周年の瞬間に立ち会えて

阿寒をアドベンチャー・

ツーリズムの聖地に

旅館業70周年を迎え、心より感謝申し上げます。この70年間、多くのお客さまに支えられ、旅館としての歴史を築いてまいりました。お客さまとの出会いは私たちの宝であり、皆さまの笑顔が私たちの原動力です。また、70年の礎にご苦労いただきました先達の皆さまにも心より感謝申し上げます。

入社33年目が鶴雅70周年に重なりました。40周年、50周年、60周年にも立ち会い、節目を4回迎えるというのは感慨深いというか、あつという間の33年だったと思っています。

鶴雅リゾート株式会社は道東圏の事業を統括していますが、私は鶴雅ホールディングス株式会社の専務として全域的に見る立場でもあります。道東地域はここへきて観光が回復傾向にはあるものの、やはりマーケットが道東と道央では違いますのでまだまだ弱含みで

す。インバウンドも阿寒に宿泊されるお客さまの比率からいくと18%ぐらい。そ

の中で私たちが取り組んでいるのが、世界的な傾向である体験型アドベンチャー・ツーリズム（AT）の日本での普及で

す。ワールドサミットも開催し、その影響もあつて欧米のお客さまが少しずつ増えています。アドベンチャー・トラベルは富裕層のお客さまも多く、消費単価も大きい。アジア系は長くて4泊、欧米系になると2週間から3週間旅行に来られて、その地域に1週間とか長期滞在されます。ATの定義はアクティビティ・自然・文化の3要素から成り、3つ揃っている地域は日本全国そんなにありません。ATTAのシャノン会長も「これだけ揃っているのは阿寒だけだ」とおっしゃるくらい、阿寒を気に入っていただいています。

ポストコロナの課題は、いろいろな施設

を作つても最終的にはやはり人です。会社の幹部になつていただける外国人の支配人を養成したい。それは外国人スタッフの励みにもなると思います。世界から多くの方が日本を訪れる中、外国人スタッフの活躍の場は今後益々広がります。これからも、変わらぬおもてなしの心を大切に、さらなるサービス向上に努めてまいります。この節目を機に、改めて感謝の気持ちを込めて旅館の魅力を二層引き立てる努力をしていく所存です。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

70周年を迎えたこの瞬間を共に祝福し、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

鶴雅ホールディングス株式会社 専務取締役
鶴雅リゾート株式会社 取締役社長

金子 力

TSUTOMU KANEKO